

## 平成25年度学術情報委員会活動経過報告

### I. 会議等の開催状況

- 第1回 平成25年 8月 9日(金) 於：京都大学附属図書館  
第2回 平成25年10月24日(木) 於：北海道大学附属図書館

### II. 活動内容

#### 1. 今年度の学術情報委員会の活動について

今年度は、以下の4点を中心に取り組むこととした。

- (1) オープンアクセス等の学術情報流通と図書館の役割に関する調査研究
  - 1) 「学術情報流通検討小委員会」を設置する。
  - 2) オープンアクセスジャーナルの状況について調査し、大学図書館の役割、課題を明らかにする。
  - 3) 国立情報学研究所が実施するオープンアクセスジャーナルの Article Processing Charge に関する調査に協力する。
  
- (2) GIFプロジェクトの将来に関する検討と現行システム運用支援体制の整備
  - 1) 「GIFプロジェクトチーム」を継続して設置する。
  - 2) GIFプロジェクトチームに GIFプロジェクトの在り方を再検討するためのワーキンググループ(GIFプロジェクト再検討ワーキンググループ)を設置する。
  - 3) 運用支援体制を整備する(メンバーの世代交代を含む)。
  - 4) 国公立大学図書館協力委員会 GIFプロジェクトとの共同体制を確立する。
  
- (3) 学術情報の利用と保存に関する検討
  - 1) 「学術資源の利用促進と保存プロジェクトチーム」を継続して設置する。
  - 2) 平成24年度の取り組みを継続し、3年目にあたるので、取りまとめを行う。
  - 3) 文部科学省に設置された科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会が公表を予定している「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」においても言及されているシェアード・プリントについて重点的に取り組み、現時点での欧米の到達点を明確にし、日本国内で実施する際の留意点等をまとめる。
  
- (4) 学術情報流通改革シンポジウムの開催
  - 1) 今後の電子ジャーナル全般についての中長期的な見通しを得ることを目的としたシンポジウムを開催する。時期は1月下旬、場所は東京を予定している。
  - 2) 大手商業出版社等が、従来からある購読モデルおよびオープンアクセスジャーナル

を今後、どのように展開していく戦略を持っているのか伺う。

## 2. 学術情報流通検討小委員会の活動について

### (1) 会議開催状況

第1回 平成25年 9月13日(金) 於：京都大学附属図書館

第2回 平成25年 10月18日(金) 於：京都大学附属図書館

### (2) 活動状況

#### 1) 検討・協議

今年度の課題を確認し、次の2点について検討した。

- ① オープンアクセスジャーナルの調査方法と進め方
- ② 学術情報流通改革シンポジウムの企画と実施概要

#### 2) オープンアクセスジャーナルに関するデータ調査

オープンアクセスジャーナルの現状を把握するために、文献データベースを用いて、日本の大学・研究所等からの投稿状況を調査する。あわせて、購読方式の電子ジャーナルへの投稿状況も調査することで、学術情報流通におけるオープンアクセスジャーナルの状況、位置等を把握する予定である。

#### 3) 学術情報流通改革シンポジウムの企画案の作成

シンポジウムの構成、招請する講演者、参加対象、開催時期、及び会場について検討し、案としてとりまとめ、学術情報委員会に報告・提案した。

## 3. GIF プロジェクトチームの活動について

### (1) 会議等の開催状況

#### 1) 第1回 GIF プロジェクトチーム会合(平成25年10月8日開催)

- ① 課題と役割分担について
- ② NCC との懸案事項について
- ③ その他

#### 2) GIF プロジェクト再検討ワーキンググループ第1回会合(平成25年9月20日開催)

- ① 再検討の進め方について
- ② その他

### (2) 日米 ILL/DD および日韓 ILL/DD プロジェクトについて

別紙「日米 ILL/DD および日韓 ILL/DD プロジェクト状況報告」を参照。

### (3) 課題等

今後、次の課題について検討を継続する。

- 1) GIF プロジェクト再検討ワーキンググループによる GIF プロジェクトの在り方の全般的見直し
- 2) GIF プロジェクトにおける業務的位置づけの確認と、担当者の継続的な業務スキルの向上

### 4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチームの活動について

今年度の主たる目的であるシェアード・プリントの調査について、プロジェクトチームにて進めている。

## Ⅲ. 委員構成

### 1. 学術情報委員会

引原 隆士	京都大学図書館機構長（委員長）
新田 孝彦	北海道大学附属図書館長
結城 憲司	室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットマネージャー
加藤 信哉	筑波大学附属図書館副館長
竹内 比呂也	千葉大学附属図書館長
関川 雅彦	東京大学附属図書館事務部長
加徳 健三	一橋大学学術・図書部長
山口 芳雄	新潟大学学術情報基盤機構附属図書館長
酒井 清彦	名古屋大学附属図書館事務部長
磯谷 峰夫	三重大学学術情報部情報・図書館課長
栃谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長
吉田 素文	九州大学附属図書館副館長
竹内 雅雄	北陸先端科学技術大学院大学副理事（研究機構担当）（兼務） 研究推進課長
相原 雪乃 （事務）	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長
加藤 晃一	京都大学附属図書館情報管理課長
井上 敏宏	京都大学附属図書館情報管理課長補佐

### 2. 学術情報流通検討小委員会

栃谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長（小委員長）
金藤 伴成	東京大学附属図書館情報サービス課相互利用係長

磯谷 峰夫	三重大学学術情報部情報図書館課長
井上 敏宏	京都大学附属図書館情報管理課課長補佐
森石 みどり	大阪大学附属図書館利用支援課フロアサービス班専門職員
篠栗 伸一	神戸大学附属図書館情報管理課課長補佐

### 3. GIF プロジェクトチーム

加徳 健三	一橋大学学術・図書部長（主査）
小林 泰名	北海道大学附属図書館利用支援課係長（相互利用担当）
細川 聖二	筑波大学附属図書館情報サービス課長
中谷 実邦子	東京大学地震研究所庶務チーム（図書）係長
上村 順一	東京海洋大学附属図書館情報サービス係長
山口 友里子	一橋大学学術・図書部学術サービス課レファレンス係
原竹 留美	京都大学附属図書館情報サービス課相互利用掛長

#### （GIF プロジェクト再検討ワーキンググループ）

加徳 健三	一橋大学学術・図書部長（主査）
井上 修	東北大学附属図書館事務部長
細川 聖二	筑波大学附属図書館情報サービス課長
関川 雅彦	東京大学附属図書館事務部長
柄谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長
相原 雪乃	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長

### 4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム

加藤 信哉	筑波大学附属図書館副館長（主査）
竹内 比呂也	千葉大学附属図書館長
関川 雅彦	東京大学附属図書館事務部長

## 日米 ILL/DD および日韓 ILL/DD プロジェクト状況報告

## 1. 日米 ILL/DD プロジェクト

## 1) 「文献複写サービス」参加状況

参加機関数は、平成 25 年 9 月 30 日現在、日本側 162、米国側 98 であり、平成 25 年 4 月以降、日本側で 2 館、米国側で 7 館増加の状況である。

## 2) 「現物貸借サービス」参加状況

参加機関数は、上記同日現在、日本側 89、北米側 68 であり、平成 25 年 4 月以降、日本側は変動なし、北米側は 7 館増加の状況である。

## 3) 日米 ILL/DD 実施状況

平成 25 年 4 月 1 日～9 月 30 日までの日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。前年同期に比べ、依頼件数で 57 件減、受付件数で 176 件増となっている。日本側受付分の謝絶率は 61.5%である。(73.0%(20 年度)→67.5% (21 年度)→67.3% (22 年度)→65.7% (23 年度)→67.1%(24 年度))。一方、日本側依頼分の謝絶率は 42.3%である。(45.2%(20 年度)→47.6% (21 年度)→45.4% (22 年度)→35.7% (23 年度)→40.6%(24 年度))

表 1 日米 ILL/DD 実施状況 (平成 25 年 4 月～9 月)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	410	261	0	671	176	281	0	457
現物貸借	87	103	0	190	97	384	0	481
合計	497	364	0	861	273	665	0	938

## 2. 日韓 ILL/DD プロジェクト

## 1) 参加状況

参加機関数は、平成 25 年 9 月 30 日現在、日本側 119、韓国側 313 館となっている。平成 25 年 4 月以降、日本側では 4 館増加、韓国側で 9 館の増加である。

## 2) 日韓 ILL/DD 実施状況

平成 25 年度の 4 月 1 日～9 月 30 日までの日韓 ILL/DD の実施状況は、表 2 のとおりである。前年に比べ、依頼件数は 36 件減、受付件数は 226 件増である。謝絶率は依頼分が 12.0%で昨年度 (21.3%) に比べ、かなり低い数値となっている。受付分に

においては 35.6%で昨年度（35.7%）とほとんど変化がない。依然として、日本側受付件数が依頼件数を大きく上回る状況が続いている。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況（平成 25 年 4 月～9 月）

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	22	3	0	25	1,294	716	0	2,010